

秋田県

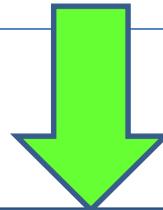
障害者の生涯学習支援モデル
事業について

秋田県教育庁生涯学習課
副主幹(兼)班長 佐藤 潔

小畑勇二郎元知事(1955年～1979年)

秋田県第三次総合開発計画(1971～1975)

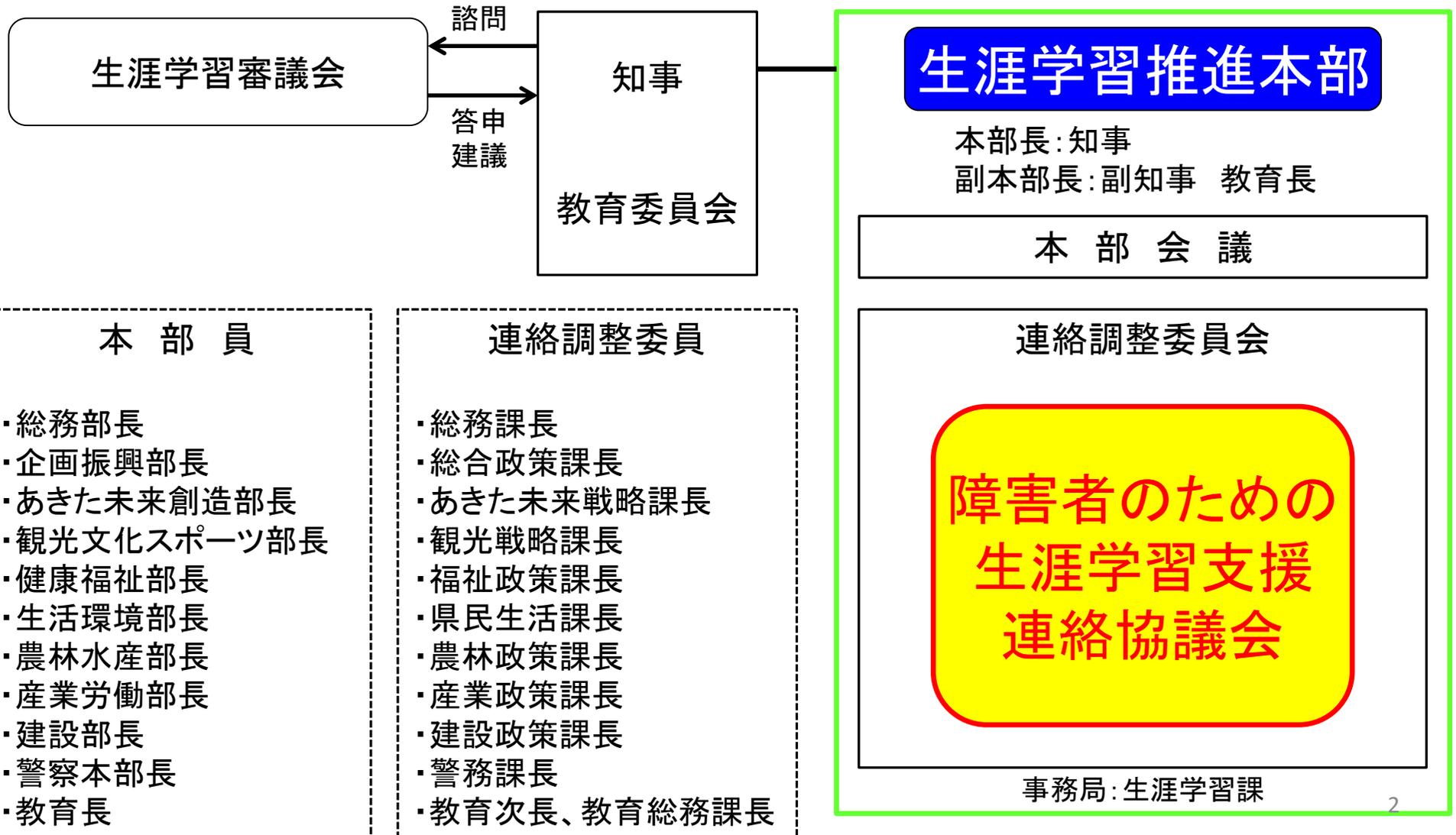
- I 健康と生活を高める福祉社会の開発
- II 生産性の向上をめざす産業の開発
- III 生涯教育の推進と人間能力の開発



1971年(昭和46年)	秋田県生涯教育推進要綱	策定
1972年(昭和47年)	秋田県生涯教育推進本部	設置

「障害者のための生涯学習支援連絡協議会」設置の経緯

秋田県生涯学習推進体制の組織図



「障害者のための生涯学習支援連絡協議会」設置の経緯

障害者のための生涯学習支援連絡協議会

設置の経緯

- ・障害者の生涯を通じた多様な学習活動を総合的に支援するため庁内各部署が連携した体制の拡充が必要。
- ・秋田県生涯学習推進本部設置要綱を改正（H29.9.4）し、「障害者のための生涯学習支援連絡協議会」を新たに設置。

ねらい

- ・障害者のための生涯学習支援について、関係機関相互の連絡調整を緊密に行う。
- ・障害者のための生涯学習支援に必要な体制づくりについて協議し、関係各課との連絡調整にあたる。

支援連絡協議会委員

委員長：生涯学習課長

- ・あきた未来創造部（あきた未来戦略課高等学校支援室） ・観光文化スポーツ部（文化振興課、スポーツ振興課） ・健康福祉部（障害福祉課） ・産業労働部（雇用労働政策課）
- ・教育庁（総務課、特別支援教育課、幼保推進課、義務教育課、高校教育課、保健体育課、生涯学習課）

秋田県の障害者の現状

人口：約98万人

市町村数：25

障害者総数：身体53,400人

：精神27,759人

：知的 8,757人

特別支援学校数 15校

在籍児童生徒数 1,280人

特別支援学校高等部卒業生数 192人

高等部職業学科設置校数 1

特別支援学級数 540

在籍児童生徒数 1,123人

特別支援学校卒業生の主な進路先

一般企業への就労 約30%

障害福祉サービス利用 約70%

職場定着率

1年目93%、2年目84%、3年目78%



秋田県の障害者の生涯学習に関する現状・課題

障害者の生涯学習に関する講座等の実施状況(H29.1月現在)

障害者が参加可能な講座を実施している市町村 13／25(52%)

障害者を対象とした講座を実施している市町村 3／25(12%)

<各市町村生涯学習担当課の自由記述>

- 特別支援学校と公民館が交流事業を行っている(書道、陶芸、園芸)。
- 県障害者スポーツ協会と公民館が共同開催で、障害者スポーツ教室を開催している。
- ▲障害の有無にかかわらず、誰でも参加できる講座を開催しているが、障害のある方の参加はほとんどない。
- ▲実際に障害がある方が参加したとしても、公民館スタッフに接し方が分からない。同伴者が必要である。
- ▲障害福祉担当課の事業があるので、生涯学習課としては特別に開催していない。
- ▲バリアフリー化していない公民館が多い。

秋田県の障害者の生涯学習に関する現状・課題

保護者の声（県特別支援学校PTA連合会四者合同懇談会より）

- ・卒業後は居住地で生活するため、在学時の仲間と会う機会が少ない。
- ・障害のある子どもが、公民館等で学ぶ機会はないと思っていた。
- ・休日は家でゲームをするなどして、一人で過ごすことが多い。
- ・親亡き後、子どもが地域で生活していけるか心配である。
- ・放課後等に活動できる場所がもっとあれば良い。
- ・卒業後の休日は、親が面倒をみなくてはいけないと思っていた。
- ・在学中にせっかく覚えた太鼓や陶芸を、卒業後に継続する場がない。
- ・親子で参加できる講座があればありがたい。

卒業後の学びのニーズは高い

実践研究事業の概要

県

「連携協議会」「障害者のための生涯学習支援連携協議会」の開催

- ・ 市内関係部局、県内関係団体に対する情報提供
- ・ 効果的な学習プログラムの検討等

生涯学習センター

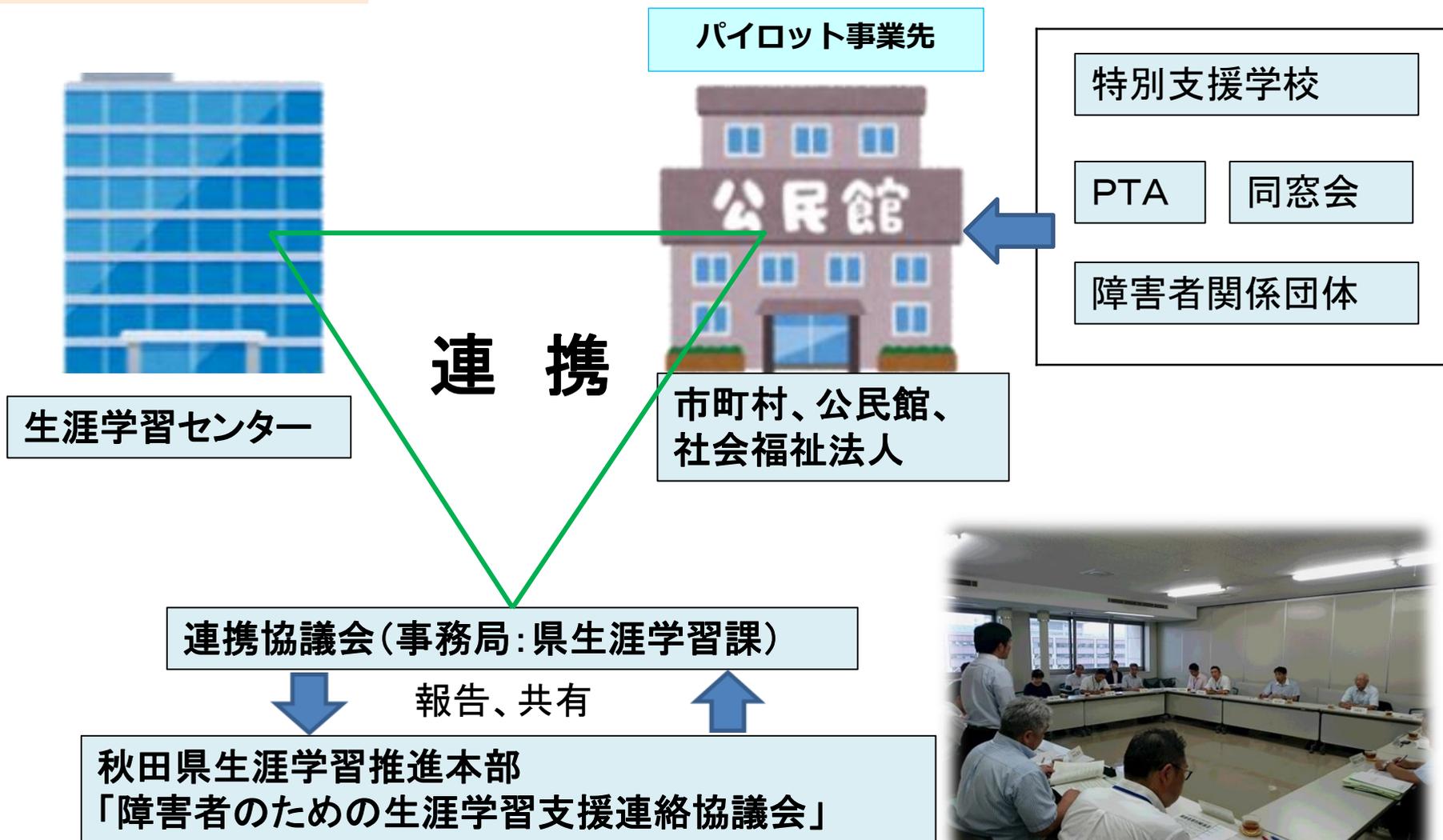
- ・ 卒業生や保護者等に対する詳細なニーズ調査
- ・ 市町村行政職員等に対する研修の実施
- ・ 障害者理解に関する啓発講座の実施

パイロット事業

- ・ 地域の関係者による連絡会議
 - ・ 学習プログラムの実施
- ➡ 効果的な学習プログラムや実施体制の試行

実践研究事業の概要

県の連携体制



実践研究事業の概要

県連携協議会

- ・取組の情報共有
- ・効果的な学習プログラムの検討等

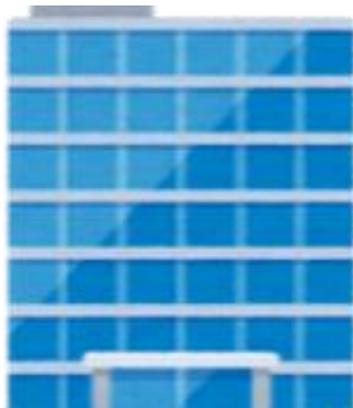
<委員の構成>

- ・大学教授
- ・県特支PTA代表
- ・相談支援事業所
- ・県障害福祉課
- ・特別支援学校
- ・委託先団体
- ・就業・生活支援センター
- ・県手をつなぐ育成会
- ・市生涯学習課
- ・特別支援教育課
- ・生涯学習センター



実践研究事業の概要

県生涯学習センター



生涯学習センター

調査研究

- ・特別支援学校卒業生や保護者等に対する
詳細なニーズ調査
- ・市町村への意識調査
- ・事例研究

研修

- ・市町村行政職員、生涯学習関係職員等

障害者理解に関する啓発

- ・情報提供、啓発講座の開催(県民向け)

実践研究事業の概要

パイロット事業先



北秋田市
能代市
潟上市

連絡会議の開催

<委員>

- ・有識者
- ・公民館
- ・社会福祉法人
- ・市教委(生涯学習課)
- ・市障害福祉課
- ・特別支援学校
- ・障害者就業・生活支援センター



学習プログラムの実施

<講座の内容>

- ・カフェ
- ・料理教室
- ・ボッチャ
- ・音楽療法
- ・陶芸
- ・リース作り
- ・卓球バレーなど

パイロット事業先での取組

北秋田市障害者生活支援センターささえ

<取組の特徴①>

- ・東京都国立市との交流
- ・市内各イベントにおける比内支援
学校たかのす校「絆カフェ」の開催



<取組の特徴②>

- ・重度心身障害児者と保護者の交流
- ・Gちゃんサミットへの参加



パイロット事業先での取組

能代市中央公民館



<取組の特徴①>

- ・既存の公民館講座講師の活用
- ・市の指定管理を受けている
芸術文化協会の公民館
→イベント主催等のノウハウ



<取組の特徴②>

- ・県立能代支援学校小・中学部
児童生徒の参加
- ・特別支援学校教員に向けた
研修機会の提供
(フォーラムの開催)

パイロット事業先での取組

潟上天王つくし苑



<取組の特徴①>

- ・オープンカフェの開催
- ・高校生ボランティアの活用
(障害者との関わり方について研修を実施)

<取組の特徴②>

- ・ひきこもりの障害者の参加
- ・潟上市地域自立支援協議会との連携を検討中





障害者の 生涯学習推進フォーラム

日時 平成30年12月2日(日)
12時45分から16時まで
(開場:正午)

会場 秋田市文化会館小ホール

**入場
無料**

- どなたでも入場できます
- 事前申込みは不要です
- 手話通訳者がつきます

講演



「生きることの、もうひとつの意味」
講師 **ドリアン助川氏** (作家、朗読家)

ハンセン病患者を描いた小説『あん』(ポプラ社)の作者。
故樹木希林さん主演で2015年に映画化された。

たくさんのご来場をお待ち
しています!

弁論

「ありのままの私で生きていく」
秋田県立視覚支援学校高等部専攻科保健福祉科2年
和郎 英咲 さん

アトラクション

「とっておきの音楽祭 秋田バージョン」
秋田すずめの会のみなさん

シンポジウム

「地域における障害者の生涯学習を考える」
コーディネーター: 秋田大学大学院 藤井 慶博 氏
シンポジスト: 竹生 寮 斎藤 雅和 氏
: ウェルビューいずみ就業・生活支援センター 牧野 真悟 氏
: NPO法人ミラクルスイミー 谷内 祐子 氏
: 北秋田市障害者生活支援センター ささえ 成田 友加子 氏

○当日は駐車場が混み合うことが予想されます。公共交通機関をご利用をご希望ください。
○小ホール入り口で、障害者支援施設によるコピー(ささえカフェ)とクッキー(涙上天主つくし焼)の販売がありますので、是非ご利用ください。

主な内容

- アトラクション
「とっておきの音楽祭 秋田バージョン」
秋田すずめの会
- 弁論「ありのままに生きていく」
秋田県立視覚支援学校高等部生徒
- 講演「生きることの、もうひとつの意味」
ドリアン助川氏
- シンポジウム
「地域での障害者の生涯学習を考える」
＜コーディネーター＞
・秋田大学大学院 藤井慶博氏
＜シンポジスト＞
・ウェルビューいずみ
就業・生活支援センター 牧野真悟氏
・竹生寮相談支援事業所 斎藤雅和氏
・NPO法人ミラクルスイミー 谷内祐子氏
・北秋田市障害者生活支援センター ささえ
成田友加子氏

平成29年度表彰
ミラクルスイマーの記念イベント

平成29年度
「障害者の生涯学習
支援活動」に係る
文部科学大臣表彰
記念イベント

平成29年度
「障害者の生涯学習
支援活動」に係る
文部科学大臣表彰
記念イベント

この日、秋田県立総合プールは
パワースポットとなる!

Power ON Switch!!

元気・勇気・やる気
をゲットしよう!!

With 寺川綾
With 上田春佳
With 加藤ゆか

ミラクル
2018
フェスタ

みんなでスイミング!
Withオリンピックメダリスト

平成30年

12/9 日
10:00 から

- 主催 / 特定非営利活動法人(NPO法人)障害者アクアレスン ミラクルスイマー
- 目的 / 競泳オリンピックメダリストをお迎えし、水泳を通して心と身体の一生涯の学習や楽しみを得られる一日とする。また、障害者と健全者が一緒に活動することでお互いの理解を進めノーマライゼーションを図る ●後援 / 秋田県、秋田県教育委員会、秋田市、秋田市教育委員会、秋田県水泳連盟、秋田県障害者スポーツ協会、秋田県新聞社、河北新聞社、朝日新聞秋田総局、毎日新聞秋田支局、読売新聞秋田支局、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送 ●場所 / 秋田県立総合プール サブプール(2階観客席は立入禁止になります) ●対象者 / 幼稚園児以上 ●募集人数 / 300名 ●参加費 / 一人500円(当日払い)(保険料込) ※付添者も同額 ※安全確保のため3年生以下は保護者等の付添が必要

ゲストプロフィール
●寺川綾(ミススイムチーム) / ロンドンオリンピック[100m競泳]銅メダル[400mメドレーリレー]銀メダル
●上田春佳(キックマン) / ロンドンオリンピック[400mメドレーリレー]銀メダル[100m自由形]出場
●加藤ゆか / ロンドンオリンピック[400mメドレーリレー]銀メダル[100m(タフライ)]出場

時間	イベントタイトル	イベント内容	イベント対象
10:00	聞いてみよう!	お題を出してディスカッション・質問タイム ゲスト紹介、ディスカッションの質疑コーナーは、参加者から申込み用紙に名前と質問を記入してもらいます	全員
11:00	一緒に泳ごう!	教えてもらおう・体験しよう・競争しよう 競泳泳法、代走リレー、指導、体験	小学生以上で 25m泳げる方
12:20	ダンスチーム練習	プールサイドでアクアダンスの練習	25m泳げない方
13:00	一緒にアクアダンス!	佐藤時子インストラクターによるアクアダンス (水深90cm、120cm)	25m泳げる方 25m泳げない方
13:15	一緒に記念撮影!	オリンピックメダリストと思い出を作ろう!	全員
13:30	パワーチャージ完了!!	スイッチオン!!	

FAX!

募集の申込用紙に記入の上
FAXにてお申し込みください。

018-866-5237

ウェブサイトも
チェック!



http://miracle
swimmy.blog.jp/

本事業の成果の活用

市町村、幼・小・中・高・特別支援学校の教員、障害福祉関係職員等、
県内関係者への「障害者の生涯学習」に関する研修と啓発

<研修会の例>

- ・県主催の実践報告会
- ・教育センターの教育研究発表会
- ・生涯学習センターの啓発講座

<啓発の例>

- ・リーフレットの配付
- ・市町村単位のフォーラム開催



- ・各市町村での学習プログラムの実施・質の向上
- ・教員や障害福祉関係者に対する理解の向上

生涯学習センターと市町村との連携 ～持続可能な取組を目指して～

・市町村行政職員への研修機会の提供

・ニーズの把握等の調査研究



<市町村>

- ・生涯学習推進計画へ事業等の明示
- ・生涯学習講座の充実
- ・事例発表会等の開催¹⁷



障害者生涯学習推進に関する秋田県ビジョン(3年後)

講座実施率の向上

障害者が参加可能な講座を実施している市町村の割合 52%

障害者を対象とした講座を実施している市町村の割合 12%



100%を目指す

事業終了後の持続的な取組体制の構築

生涯学習センターへの知識・ノウハウの蓄積



市町村への相談・助言等の継続的な実施

障害者生涯学習推進に関する秋田県ビジョン(3年後)

県内特別支援学校における「生涯学習」に関する位置づけの明確化

<秋田県立能代支援学校の例>

学校要覧の「本年度の重点」に「交流及び共同学習を中心とした特別支援教育、**生涯学習の推進**」を掲げている。

各地域の「障害者の生涯学習」の充実

<地域自立支援協議会委員の構成の例>

- ・学識経験者
- ・手をつなぐ育成会
- ・知的障害相談員
- ・民生委員
- ・社会福祉法人
- ・相談支援事業所
- ・特別支援学校
- ・障害者職業センター



- ・自立支援協議会の活用
- ・委員として、生涯学習関係職員や社会教育主事を追加 等

これまでの成果と課題

○成果

1 部局を超えた連携、情報交換

(生涯学習推進本部連絡調整会議)

(1) 障害福祉課 ～秋田県障害者差別解消条例について



○成果

1 部局を超えた連携、情報交換

(2) 特別支援教育課～障害理解授業の推進について

(参考) 学校教育の指針～人権教育について

障害者差別解消に向けた取組について

- ・障害を正しく理解し、障害のある人の生活のしづらさ(社会的障壁)について学ぶことで、障害のある人もない人も共に生活できる社会の実現を目指す。

(例) 県南の小学校の道徳科の授業において

- ・地域の障害者施設と**複数回**交流→児童の障害者観が変容！

○成果

2 再委託先と特別支援学校の交流

- ・特別支援学校の授業を再委託先の支援スタッフが見学

3 県特別支援学校PTA連合会との連携

- ・保護者からの要望等の把握

4 障害者関係団体との連携

- ・県知的、身体、精神障害団体へ本事業説明、協力依頼

▲課題

1 再委託先の主体性のバランス

- ・著名大学教授の講演会
- ・講座の周知方法(特別支援学校同窓会の協力)

2 障害福祉課担当事業との調整

- ・心いきいき芸術・文化祭

3 公民館のバリアフリー化

- ・車いす利用者の2階への階段移動
- ・体育館での運動制限